

建築人

2023

12

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin" No.714





建築人

2023.12 No.714

Osaka Association of Architects & Building Engineers
Newsletter "Kenchiku-Jin"

表紙の建築 「藤田美術館」2020年

第66回 大阪建築コンクール大阪府知事賞 受賞作品
設計：大成建設 一級建築士事務所
施工：大成建設
撮影：AKira Ito・aifoto

大阪城のふもとに位置する藤田美術館は、かつて周辺一帯が藤田家の敷地であった場所の一部にたたずむ。当時の土地の記憶を呼び戻すべく隣接する公園との間の塀を撤去し境界をなくした。加えて建材の再利用など、循環する建築として歴史継承のあり方を追求した。

2 大阪こちエエ

4 Gallery 建築作品紹介

「GOSHOEN」
設計：無有建築工房
施工：杉谷建設

「株式会社八景 新社屋」
設計：こま設計堂
施工：新洋建設

「小箱家」
設計：T-Square Design Associates
施工：ICHI-市川工務店

7 動静レポート

8 Topics

9 News of Note

10 Information

12 Close-up Osaka

14 記憶の建築

「ソルフェージュスクール」1967年
吉村順三夫妻が育て上げた音楽教室 / 松隈 洋

大阪こちエエ

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪府下には、大阪市のような都市部もあるが、市民に愛でられている自然豊かな地域もある。今回は、交野市にある「ほしだ園地」を取り上げたい。

府政100年を記念して、金剛生駒紀泉国定公園の豊かな自然に親しめるよう、大阪府が森林や施設を整備した「府民の森」は9つの園地からなる自然公園だ。その総面積は617haにおよび、個性豊かなそれぞれの園地には、キャンプ場やクライミングウォール、吊り橋、ハイキングコースなどが整備され、また四季折々の美しい景色を堪能できる。

その中でも「ほしだ園地」には、日本でも最大級の木床版による歩行者専用吊り橋があり、延長は280mで最大地上高は50mの高さがある。星のブランコと名付けられた由来は、交野市の星にまつわる歴史である、七夕伝説や空海の八丁三所伝説などから、星降る里のシンボルとして名付けられたものだ。

園内に天孫降臨伝説のある哮が峰（たけるがみね）がありその岩棚には、ハヤブサが繁殖しておりバードウォッチングなどが盛んで、森林浴なども楽しめるこちエエと言える自然公園だ。紅葉も楽しみたい。

建築人 No.714 2023年12月号

監修 公益社団法人大阪府建築士会 建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

部門長：田鍋 稔

委員長：松下典央（編集人代表）

編集人：石上芳弘 梅田武宏 荻窪伸彦 笠井志保
河合哲夫 大松俊祐 橋本頼幸 北條豊和
牧野隆義 三谷勝章 武藤優哉 村上栄司
茂籠一之 山本恭史

事務局：隅原正太 母倉政美

ロゴ・フォーマットデザイン 芝野健太

印刷 中和印刷紙器株式会社

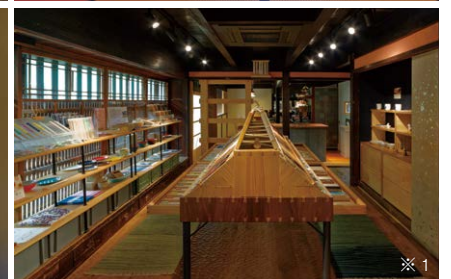
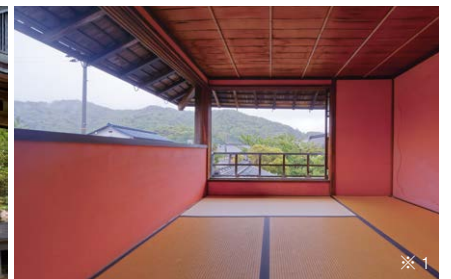
令和5年12月1日発行

発行人：会長／岡本森廣

発行所：公益社団法人大阪府建築士会

〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5F

tel. 06-6947-1961



藩主の別邸からみんなの別邸へと舵を切った指定文化財
北前船の寄港地として賑わった福井県小浜市。藩主や賓客をもてなす別邸として古河屋5代目船主により1815年に建てられ、県指定有形文化財である旧古河屋別邸（護松園）は、市や県が保存活用を模索する中、創業100年を迎えた若狭塗箸のメーカー「マツ勘」が取得し、リノベーションにより様々な人が集う“みんなの別邸”「GOSHOEN」へと再生した。建築の品格や細部の意匠を損なうことなく、変更箇所は行政の指導のもと現状を記録、資材を保管した。新たにカフェ、ショップ、コワーキングスペースや若狭塗の伝統や技法と、古河屋・北前船の歴史を辿るミュージアムを併設し、次世代への架け橋となる保存と活用が実現した。

所在地：福井県小浜市
用途：福井県指定文化財
竣工：2022.12
構造規模：木造2階建
土蔵2階建
敷地面積：831.39㎡
建築面積：313.30㎡
延床面積：355.97㎡
写真：※1 絹巻豊
※2 堀越一孝
※3 無有建築工房



敷地は八尾空港に近接する工場と古くからの住居と工場跡地に新しい住宅が混在して建ちならぶエリア。造園業を営む(株)八景の新社屋を計画するにあたり、敷地内に緑があふれるだろうことから周辺の工場・古い住宅・緑の一部になるような建物を目指した。事務室空間も打合せ空間もその間仕切りもガラス張りにして、事務所から見える空間も外から見える事務所内も風景の一部に取り込んだ。建物は袋地の突き当たりにある。住民以外の人や車が通る場所ではなく、普段歩く人も少ない道の突き当たりだがふらりと入ってくる人がいるという。一日の仕事が終わって会社に戻る細い道に入ったときに癒やされる風景になってほしいと願っている。

所在地：大阪府八尾市
用途：事務所
竣工：2023.09
構造規模：木造平屋
敷地面積：513.76㎡
建築面積：111.36㎡
延床面積：100.09㎡
写真：鞍留清隆



芦屋の山手に建つ小さな木造2階建て住宅である。ここでは、「小さい」ことを逆手にとったシンプルな構造計画で間仕切り壁をほぼ無くしたワンフロアワンルームを目指した。また2階の天井は「小ささ」を利用し、外形をそのまま表した勾配天井としている。1階は水廻りと寝るスペースのみで、小さい空間だからこそ、各居室は布だけで仕切り、間取りに可変性を持たせた。仕上げは簡素だが本物にこだわった。周辺は、芦屋らしい豪邸が建ち並ぶが、この小さな住宅は、全く別の空気感を纏いつつも、ちゃんと街並みに馴染んでいる。そういう意味で、この住宅は、芦屋という豪邸街で一番小さな豪邸なのかも知れない。

所在地：兵庫県芦屋市
 用途：専用住宅
 竣工：2023.06
 構造規模：木造
 地上2階
 敷地面積：177.92㎡
 建築面積：41.40㎡
 延床面積：81.14㎡
 写真：楠瀬友将

動静レポート

会長動静

- 10/30 大阪府仲裁廷
- 10/31 大阪府収用委員会
- 11/ 2 柏原市長面談、ヘリテージ委員会協議
- 11/ 6 大阪工業大学准教授意見交換
- 11/ 7 日本建築士会連合会国際委員会
- 11/8～12 日中韓定期協議（韓国・大田）
- 11/13 正副会長会議
- 11/14 大阪府収用委員会
- 11/15 八尾市長面談、理事会
- 11/17 賛助委員会意見交換会
- 11/20 羽曳野市長面談、府収用委員会面談
- 11/22 富田林市長面談
和歌山県建築士会会長面談
- 11/25 防災士研修

会長・役員による府内 43 市町村訪問

◎ 11/2 柏原市・富宅正浩市長と面談



松井副市長、富宅市長、岡本会長、石貫副会長、尾鍋元監事

◎ 11/15 八尾市・大松桂右市長と面談



仙入理事、大松市長、岡本会長、横田副会長

◎ 11/20 羽曳野市・山入端創市長と面談



上田副会長、岡本会長、山入端市長、松村元理事

◎ 11/22 富田林市・吉村善美市長と面談



横関元理事、岡本会長、吉村市長、徳岡副会長

11 月度 理事会報告

日時 11 月 15 日（水） 18：00～19：30

場所 本会会議室

出席 理事 37/47 名 監事 2/2 名

(1) 入退会の承認

(人)	10 月	入会	退会等
正 会 員	2,293	6	4
準 会 員	31	0	0
特 准 会 員	22	0	1
賛 助 会 員	139	0	0
計	2,485	6	5

(2) 会計報告

(円)	10 月計	累計
収入	11,175,150	96,314,283
支出	10,927,780	68,988,220
差引	247,370	27,326,063

上表の当期経常増減明細を承認しました。

(3) 大規模災害時の業務委託契約書

令和 3 年に内山鑑定及び令和 4 年に（公社）日本損害鑑定協会と「大規模災害時における基本協定書」を締結していることに伴い、実践活動における業務委託契約を締結することを承認しました。

(4) 大阪府歴史的建造物委員会の要綱

日本建築士会連合会から都道府県建築士会に歴史的建造物の相談体制及びスキルアップ講習の整備のための歴建委員会設置の要請を受け、大阪府と連携して同委員会を中心に歴史的建造物を有効な利活用に導くための提言を行う歴建委員会を設置するための要綱を承認しました。

(5) ヘリテージ委員会による相談体制

地域の歴史ある建物の利活用等に関して、所有者や利用者等からの相談を受けるために、既存の建築相談窓口と連携して歴史的建造物に係る相談内容はヘリテージ委員会

が対応を行います。

(6) 大阪大会実行委員会の進捗

① 万博入場チケットの仮受付

大阪大会参加者を約 4,000 名、大会直後の土日の万博入場希望者を各 1,000 名の計 2,000 名と想定し、JTB を通じて 11/30 からの団体販売の仮受付に申請します。

② 大会ポスター・フライヤー

静岡大会での大阪大会広報用の名刺型カードのデザインをもとにポスター及びフライヤーを作成します。

③ 大会テーマとサブタイトル

大会テーマ「建築からソーシャルデザインへ」に付くサブタイトルは、それぞれの行事内容等に応じて自由に付記することとし、大阪大会ではメインタイトルのみとしました。

枚方市総合防災訓練に参加

10 月 14 日に枚方市総合防災訓練が実施され、枚方市と災害時応援協定を締結している本会から被災建築物応急危険度判定士 2 名が参加しました。

枚方市立氷室小学校に地域の防災リーダーや学校関係者、市職員が参集し、避難経路の安全確認や避難所開設時の注意点、建物の安全確認チェック方法、避難後の集団生活のプライバシー保護、救援物資受け入れ態勢等の研修、及びドローンを利用した避難所（体育館）の屋根のチェックなどが行われました。

本会の判定士は、避難所の危険性チェック方法や、崖地崩壊の予兆などの説明を行い、避難所（体育館）の危険可能性箇所を具体的に指摘し、有事の際に地域住民を安全かつ迅速に避難所へ誘導して退避できるかを確認しました。館内には簡易の間仕切りやベッドが施設され、参加者は実際に組立や解体を体験しました。



神戸須磨シーワールド 工事見学会+説明会

日時：令和5年10月18日(水)

会場：竹中工務店作業所事務所(須磨シーワールド内)

参加者：29名

須磨海岸は古来より関西随一の自然海岸、白砂青松の景勝地であり、風光明媚な保養地・別荘地として発展し、神戸市民にとっても教養やレクリエーションの場として重要な役割を果たしてきました。1957年に完成した須磨水族館は、当時東洋一の規模をもつ水族館であり、1987年に新たに建設された須磨海浜水族園は「生物の生きざまをみせる」水族館として常に先進性を発信してきました。施設の老朽化が進み集客力維持が困難となった現在、「地域コミュニティと観光客が交流する“つながる”海浜リゾートパークの実現」をコンセプトに掲げ、地域と共存する新しいリゾートや公園の有り方を構築することを目指した再整備が行われました。

今回の見学会+説明会では、神戸須磨シーワールドの設計担当者・施工担当者から設計・施工上の工夫について解説していただ

き、神戸須磨シーワールドの全貌をご紹介いただきました。

最初に、株式会社竹中工務店の梶村設計担当チーフアーキテクトより、須磨シーワールドの再整備計画の全体概要、印象に残る外装デザイン、各施設のコンセプト等について講演いただきました。

次に、株式会社竹中工務店の村上構造設計担当主任より、オルカ・イルカ棟を中心とした建物の構造概要をしていただき、特に見せる構造デザインとしてのスタンドの大屋根の構造設計についてご講演いただきました。

最後に、株式会社竹中工務店の黒河作業所長より、水族館内の海水取得設備工事、BIMを用いた施工管理方法など、水族館特有の施工方法を交えながら工事概要を詳しくご講演いただきました。

講演後、竣工直前の建物内・建物周辺を見



田中秀人(研修委員会委員)

学させていただき、講演で解説いただいた内容がどのように具現化されているかを実感させていただきました。

設計・施工両面において、活発な質疑応答がありました。参加された皆様には非常に有意義な機会になったものと感じております。本見学会・説明会を無事に終えることができ、講師の皆様、後援団体の皆様、参加者の皆様に対して、この場を借りて心より御礼を申し上げます。



建築相談室から(78) 面接相談から②

先月に引き続き本会相談で行っている有料の面接相談(平日午後4時~5時・1時間以内:5,500円(税込))の記録からいくつかご紹介いたします。

新築ビルに水がたまる

新築2年目の鉄骨造ビル。引渡3ヶ月後に床の仕上げがめくれ、床下が水浸しになっていた。現在1階の床がめくれるところはめくってスケルトン状態になっている。新築施工者に調査解体をお願いしたが、業者は結露が原因として床解体費用を請求してきた。施工者は結露が原因とした報告書を持ってきた。竣工図と解体後の写真を持参の上、面接相談に来訪。相談担当者は、写真を見る限り、結露が原因で貯まった水の量ではないと判断しています。一方で、図面で1階の床高さが外部地盤面と同じ高さであると指摘して雨水の浸入を相談者に確認するも、それはないとのこと。写真からは、

排水管貫通部が塞がっていないように見えたので、そこからの浸水も疑われるとアドバイス。現在双方に弁護士がいるという状態とのことだが、当事者間の協議が難しければ民間総合調停センター(ADR)の利用もあると提案したとのことでした。

リフォーム工事が納得できない

3階建てRC造の自宅のリフォームを行ったが納得がいない。工事の内容や見積書の確認をしてほしい。場合によっては見積書や図面の作成をお願いできないか?という電話相談から面接相談に。面接相談で詳細を聞いていくと、「リフォームの工事が終わったが一緒にローンに含めて考えていた自動車購入代金分を返金してもらえない。」ことが相談者の不満。「お金を返してもらえない理由は追加工事があったからと施工者から言われたが、実際に行われていない工事があるため、その分を返してもら

橋本頼幸(建築相談委員会幹事)

いたい。」と。相手の施工業者は既に電話に出てもらえないとのことで、弁護士への相談を提案しています。

このように電話相談で聞いたことが、面接相談や現地相談などで変わることがあります。電話では本当のことを聞き出せない、話をしづらいことがあります。そういったときに面接相談は意外と有効です。

消防からの指摘

7階建てマンションを購入したが、外部廊下から雨が入り廊下が汚れるため、外部階段に簡易な屋根と壁を設置したが、消防から避難階段なので撤去するように指導を受けた。どうしたらいいか?と図面と写真を持参して面接相談。図面を見る限り規制ギリギリの屋外階段になっているため屋根や壁を設けることはできないと考えられる。屋根・壁は撤去することをおすすめする。というアドバイスをしています。

大阪文化財ナビの紹介

大阪文化財ナビ

検索



ヘリテージ委員会 副委員長 昇 勇

大阪府文化財情報発信事業「大阪文化財ナビ」は、文化庁補助を受けて大阪府下の登録文化財などの歴史的建造物の情報発信とサイトの閲覧者が簡単に親しみやすく文化財についてのデータを収集することを目的としたポータルサイトです。またこのサイトは、観光、防災、災害対策、インバウンド、情報交換などの機能も備えています。大阪の文化財に触れることができる機会を増やし、歴史と文化の魅力を伝えることを目指しています。



【NEWS最新情報】ニュースの発信においては、地域の多様で豊かな文化遺産を活用した事業、伝統芸能・伝統行事の公開・後継者養成、古典に親しむ活動、大阪の様々な文化・芸術に関与する人々を育成する事業、観光事業、誘客事業など幅広い内容を伝えます。【文化財紹介】文化財ナビでは大阪府下の文化財を親しみやすい雑誌のように歴史・文化・住居・産業に分けて紹介しております。建物の写真と基本情報に加え、概要説明とGoogleマップによる位置情報を掲載。関連する文化財も紹介しておりますので初めての方も新しい文化財の発見があるかもしれません。



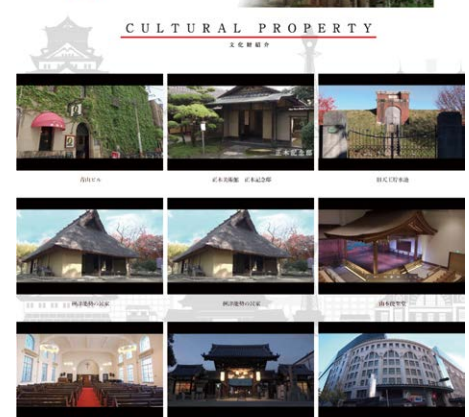
【多言語化】コロナ後訪日外国人数も回復し2025年の大阪・関西万博に向けてインバウンド需要も高まっております。その一環としてサイトの英訳・中国語(繁体字・簡体字)訳・韓国語訳・フランス語訳の多言語化を行いました。メニューバーから言語を切替できます。【用語集】文化財を紹介するページでは古建築や近代建築などの歴史的建造物の専門用語の記載が必要不可欠ですが、一般市民、特に観光客にも効率よく説明をするために建築に関する用語の解説をまとめました。様式、建物名称、細部名称、工法など項目ごとに検索が可能で、今後関連する写真などの掲載も進めていきます。

【伝統工法特集】伝統工法特集では河内長野市の観心寺金堂を題材として古建築の拡大写真からその細部名称(ディテール)を分かりやすく説明しています。またVR見学と称して建物を360度カメラで見学が可能です。



【動画探訪】文化財ナビの4つのジャンル、歴史(大阪天満宮・大阪日本橋キリスト教会)文化(正木美術館正木記念邸・山本能楽堂)住居(青山ビル・摂津能勢の民家)産業(南海電鉄・旧天王貯水池)から8カ所の動画による文化財紹介を行いました。

動画探訪



【音声ガイド】音声ガイドによる文化財解説は各分野から20箇所を掲載しました。美術館での作品解説を聞くように歴史的建造物を観光客等に伝えることができます。以上「大阪文化財ナビ」の紹介をさせていただきました。これからも文化財を記憶に留め、大阪の文化を未来に繋いでいきましょう。

Information

Informationの詳細及び申込みは本会ホームページに掲載しています。

【大阪府建築士会】大阪府中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階

http://www.aba-osakafu.or.jp/ メール info@aba-osakafu.or.jp TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)

耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価 等

(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。

既存木造住宅の耐震診断・改修講習会(一般診断法)

12/8 CPD5単位

本講習会は、既存木造住宅の耐震診断・改修を適切に行うことができる技術者の養成を目的としています(国土交通大臣登録講習ではありません)。講習会の修了者名簿は大阪府及び府内全市町村・関係団体に常備し、耐震診断を希望する建物所有者等からの問合せに活用します。

日時 12/8(金) 10:00~15:50

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 会員5,000円 一般9,000円

テキスト代 7,300円[2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法]

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習1/18 更新講習3/13

CPD新規5単位、更新各2単位

既存住宅状況調査は、登録機関の講習を修了した建築士のみ認められる業務です。ぜひ本講習で新たな業務の資格を取得してください。なお、2020年度に本講習を修了された方は本年度が有効期限となりますので、更新講習をご受講ください。

▼新規講習(DVD)

日時 1/18(木) 9:30~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込21,450円

郵送申込22,000円

▼更新講習(DVD)

日時 3/13(水) 13:30~16:50

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込17,000円

郵送申込17,600円

▼申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。上記以外にオンライン講習も開催いたします。

令和5年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)

1/26、2/14、3/8 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講ください。

日程 1/26(金)、2/14(水)、3/8(金)

時間 8:55~17:00

会場 大阪府建築士会 東会議室

定員 各回30名(定員に達し次第締切)

受講料 WEB申込み9,500円

郵送申込み10,000円

申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。

http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html

令和5年度建築士定期講習

1/30、2/6、3/29 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は令和2年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

▼対面講義

日程・会場・定員

※2/6(火) 大阪YMCA会館 200名

▼DVD講義

日程・会場・定員

1/30(火) 大阪府建築健康会館 90名

3/29(金) 大阪府建築健康会館 90名

時間 9:15~17:00(各講習日共)

受講料 12,980円(消費税含。事前振込)

申込方法

申込用紙を建築技術教育普及センターHPからダウンロードしてください。(令和2年度受講者には、同センターから直接申込書を郵送しています。)

ご記入後、大阪府建築士会事務局又は大阪府建築士事務所協会事務局へ持参していただくか、簡易書留にて郵送してください。

受付場所(送付場所)

※印の日程 大阪府建築士会事務局

※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。

https://jaeictkosyu.jp/jaeicteikikosyu/

注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

令和5年度大阪府ヘリテージマネージャー スキルアップ講習 第5回(兼ステップアップ講習)

2/10 CPD4単位(予定)

本講習は、ヘリテージマネージャーのさらなるスキルアップを目的に行う講習会です。全6回の講座で保存活用、調査や修復技術などを学びます。

日時 2/10(土) 13:00~17:00

テーマ 「伴林氏神社で近代和風社殿の歴史と価値を考える」

講師：窪添正昭氏

「近代和風社殿での調査と所見作成(伴林氏神社を事例として)」

講師：柳金剛組 木本久晴氏

「四天王寺工匠の仕事～遺構や古図面を通じて～」

現地見学会および氏子のお話あり。

会場 伴林氏神社(藤井寺市)

定員 30名(予定 申込先着順)

受講料 本会会員及び大阪府ヘリテージマネージャー協議会会員1,000円

一般2,000円

※詳細および申込は本会ホームページをご覧ください。

令和5年度大阪府ヘリテージマネージャー スキルアップ講習 第6回(兼ステップアップ講習)

2/24 CPD4単位(予定)

本講習は、ヘリテージマネージャーのさらなるスキルアップを目的に行う講習会です。全6回の講座で保存活用、調査や修復技術などを学びます。

日時 2/24(土) 13:00~17:00

テーマ 「(仮)煉瓦と庭」

講師：山岡邦章氏

(岸和田市郷土文化課)

講師：福原成雄氏

(造園家・大阪芸術大学教授)

会場 自泉会館(岸和田市)

定員 30名(予定 申込先着順)

受講料 本会会員及び大阪府ヘリテージマネージャー協議会会員1,000円

一般2,000円

※詳細については、内容確定次第本会ホームページに掲載いたします。

第3弾 これを見ずして村野藤吾を語るなかれ

12/23 CPD2単位(予定)

2018年に開催した村野藤吾建築をめぐる第3弾企画は、関西大学校内を散策します。関西大学環境都市工学部建築学科准教授橋寺知子先生の案内により村野建築を堪能していただけます。

日時 12/23(土) 14:00~16:00

工程 関西大学校内

案内人 関西大学環境都市工学部建築学科准教授 橋寺知子氏

参加費 会員1,000円 一般1,500円

定員 限定30名(申込先着順)

申込 大阪府建築士会HPより

その他のお知らせ

2023年度日本建築学会支部共通事業「建築基礎構造設計例集」改訂講習会

2/1

『建築基礎構造設計例集』の前回改訂から20年が経過しました。今回の改訂は、上部構造の2次設計で想定する荷重に対して基礎構造も設計することを基本とした2019年の『建築基礎構造設計指針』(基礎指針)の改定を受けて、その内容に沿った設計例集となるよう作り直したもので、セットで利活用いただけると思います。今回の刊行を機会に、書籍に沿って内容をご説明する講習会を企画しました。奮ってご参加ください。

日時 2/1(木) 9:50~17:00

場所 大阪科学技術センター 大ホール

定員 140名

参加料 日本建築学会会員13,000円

後援団体会員15,000円

上記以外18,000円

申込 日本建築学会近畿支部「建築基礎構造設計例集」改訂講習会係

Tel.06-6443-0538

https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=685296

日本建築学会主催講習会「建築物の解体工事施工指針(鉄筋コンクリート造編・鉄骨造編)」

3/1

「建築物の解体工事施工指針(鉄筋コンクリート造編・鉄骨造編)」の発行に際して講習会を開催しますので、建築物の解体工事に携わる技術者各位におかれましては、ふるってご参加のほどお願いいたします。

日時 3/1(金) 13:30~16:50

場所 大阪科学技術センター 中ホール

定員 100名

参加料 日本建築学会会員9,000円

後援団体会員11,000円

上記以外14,000円

申込 日本建築学会近畿支部講習会「解体工事施工指針」係

Tel.06-6443-0538

https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=692177

2024年 「建築人」作品募集



審査委員長 磯 達雄

1963年 埼玉県生まれ
1988年 名古屋大学工学部建築学科卒業
日経BP社入社「日経アーキテクチュア」編集部勤務(～1999年)
2001年～ 桑沢デザイン研究所非常勤講師
2002年 フリックススタジオ共同主宰(～2020年)
2008年～ 武蔵野美術大学造形学部芸術文化学科非常勤講師
2020年～ Office Bunga共同主宰

Gallery 掲載要項

Galleryとは…

公益社団法人大阪府建築士会は、会誌『建築人』を会員サービスの一環として毎月発行しています。発行部数は約3,000部で会員のほか、官公庁、大学、図書館、出版社、報道機関等に頒布しています。この『建築人』では、毎号「Gallery」というコーナーを設けており、皆様の建築作品を掲載しております。皆様の作品を本誌へ掲載しませんか？

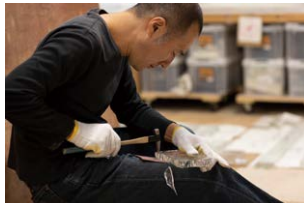
掲載作品は、同時に『建築人賞』候補に！ 『建築人賞』とは

Gallery掲載作品は自動的に大阪府建築士会が毎年表彰している『建築人賞』の候補となります。(毎年1月号～12月号掲載作品)

『建築人賞』は、これまで15回を数える賞で、個人の審査委員長により選考します。賞には、「建築人賞」「建築人賞新人賞」「建築人賞奨励賞」「建築人賞佳作」があり、建築主、設計者、施工者に賞状が贈られます。さらに「建築人賞」「建築人賞新人賞」の設計者の方には、記念品が授与されます。表彰は、5月に行われる建築士会の年次総会で表彰式を挙行しており、受賞される建築主、設計者、施工者の方に参加していただいております。



記念盾 グラスアーティスト 佐久間 靖 作 (左：建築人賞 右：建築人賞新人賞)



佐久間 靖

1971年 大阪府高槻市生まれ
1996年 神戸学院大学 法学部 卒業
1997年 株式会社 ロクレーブルプロダクショングラスアーティスト 三浦啓子氏に師事
2016年 株式会社 Jiku Art Creation 作品制作に従事

■ 掲載費用

100,000円(1頁カラー)

*①：初回割引 80,000円

(設計者および施工者が過去10年間、Galleryに掲載されていない場合)

*②：若手初回割引 50,000円

(40歳以下で建築設計事務所を主宰されている方で*①を満たす方)

■ 掲載概要

建築主、設計者、施工者、協力会社、
所在地、用途、竣工年、構造規模、
敷地面積、建築面積、延べ床面積

■ 掲載記事内容

写真4点程度
説明文章：約300字程度

空き家のこれまでとこれから



熊取町 都市整備部 まちづくり計画課 課長 馬場高章

はじめに

熊取町の空き家の状況ですが、平成30年の住宅・土地統計調査では、6.7%となっており、データがある39団体中最下位となっており、低い水準にあります。しかしながら、昭和50年代から全国的な人口増加を背景として、急激に住宅が増加した本町において、その時期に建てられた住宅が、建築後50年を迎え、所有者の高齢化もあり、空き家の状況が一変する可能性があると考えています。

熊取町は昭和60年の国勢調査で前回調査から府下最高の人口増加率を記録しています。

これまで

本町の空き家に関連した施策としては、平成25年から27年まで期間限定で実施していた転入促進制度のひとつの「中古住宅取得費補助」がありました。これは、転入促進制度の「新築住宅に対する固定資産税の課税免除」とセットとなるものでした。補助金額は10万円なので、転入される方に、ちょっとしたインセンティブというところですが、3年間で64件の申請があり、年間の新築件数(建築確認件数)が200件弱の本町にとっては、少なくない件数となりました。後で不動産業の方から聞いたことですが、熊取町内の物件を販売する際、セールスのきっかけとしても効果があったそうです。

平成30年には「空き家バンク」と「空き家相談員制度」を創設し、令和元年度には、熊取町の空家等対策計画である「熊取町まち育てプラン」を策定しました。

これから

本計画では、その後10年を見据え、管理不全空き家を抑制する予防的措置に焦点をあて、①所有者に向けての管理不全によるリスクの周知、人口が減少傾向にある中、どうしても発生する空き家について、②2地域居住(マルチ・ハビテーション)、③住まい、職場などにつづく第3の場所として地域のコミュニティの活性化につながる空き家活用などを検討すべき事項としました。まだまだ、成果をあげることが出来ていませんが、計画の中間年を迎えることから、具体化に向けて取り組んでいきたいと思っています。

空き家の管理不全の抑制には、所有者への支援策を検討する必要があります。今後の参考にするため、今回、府内で実際に空き家を

所有している方に空き家の管理について聞いてみました。ここでは仮にAさんとします。Aさんがご両親から相続した住宅は昭和初期に建てられたいわゆる古民家です。駅からは歩いて約10分。不便な場所ではありません。利活用可能と思うのですが、どのような課題があるのでしょうか。

Q1 どうして空き家のままなのですか。

両親の物が、まだたくさんあります。それから祖父母からの仏壇があり、両親が亡くなって20年くらいは、法要する場所も必要なのでとりあえずそのままというところ。長いスパンで片付けていこうと思っていますが、まとめてゴミを捨てようと思っても、ごみ焼却場は居住者でないと受け入れてもらえないので、ある程度ゴミがまとまったら、清掃業者さんをお願いして処分しています。2トラック2台分ほど捨てましたが、まだまだ道半ばというところ。です。

国の「令和元年空き家所有者実態調査」でも、アンケート結果に「仏壇などほかに保管場所のないものがある」が上位にあり、ある意味、典型的な状態ではあるものの、今後、Aさんが高齢となり体力的に自身での維持管理や片付けが困難となると、放置される可能性があります。残された家族による近親者の遺品整理というありふれたことが、「家」という単位になると、仏壇など処理が難しい動産や、動産処分に必要な費用と労力が想像以上に重い負担であり、空き家の利活用、処分の障壁となっていることがわかります。

Q2 管理する上での課題は何ですか。

税金もありますが、年1回植木屋さんに支払うお金、それから、普段、誰もいないので、防犯のために機械警備を設置しています。そういった費用を、いつまで負担できるかですね。将来、子どもたちの負担にはしたくないので、僕が生きているうちに、家屋も仏壇も処分したいと思っていますが、まだその時期ではないかなという感じです。子どもたちが大人になって、どこで、どう暮らしていくかがわかれば、それに応じた形で、引き継いでいけたらと思います。その段階になれば、売却することも選択肢です。

Q3 ご自身では住まないのですか。

仕事には今の家が便利ですから。リフォーム

とも思いますが、自分の家のローンがありまして、リフォームローンには上限があるので部分的な改修しかできず、いわゆる古民家再生とはいきません。高齢者向けのローンも検討しましたが、僕が死んで、担保とした土地がなくなってしまえば、ご先祖様に申し訳ないですから。建て替えるにしても資金の問題があるし、叔父や叔母が育った家を、叔父や叔母が生きているうちに解体するのも心苦しいです。津波が予想されるエリアということも判断が難しくなる要素ですね。

Aさんの場合、自身の費用負担で維持管理されているが、経済的な事情でそのような費用が負担できずに維持管理が行われない場合、売却や利活用がさらに困難となることが予想されます。

また、利活用といっても、リフォームや建て替えなどには大きな負担がともなうことから、相続人が容易に行えるものではないようです。

Q3 空き家所有者にどのような支援があればいいと思いますか。

僕の場合は、自分の家がそれほど遠くないので、自分でなんでも対応できますが、遠く離れたところに住んでいる場合は、大変ですね。時間や旅費がかかりますから。そういった場合に、見回りしてくれる制度とか、ポストの整理やちょっとした除草とか、住まないなら、売却すればいいんでしょうが、不動産が安くなってるし、荷物の片付けが想像以上に本当に大変ですから。

遠隔地に住む所有者にかわって軽微な日常管理を行うサービスなどを検討することも必要そうですね。

住宅の管理は、所有者によって行われるべきものですが、最低限の維持管理費用は必要となります。軽費での維持管理や利活用を専門家が提案できる仕組みなど、空き家の所有者に対する支援策を早期に実現する必要があります。

また、空き家を抑制するためには、長期的視野に立ち、空き家と直接的な関連がないように思える道路などの公共施設整備、子育てや教育環境の整備などにより、「住みたいまち」として、まち自体の価値を高める「まち育て」の視点が必要と考えています。

Close-up Osaka

りんくうタウンのまちづくりについて



泉佐野市 市長公室 地方創生担当理事 福井丈司

泉佐野市の概要

泉佐野市は大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、人口が約10万人、大阪で唯一の温泉郷「犬鳴山温泉」があるまちです。里山に囲まれた美しい景観と懐かしい風景がたくさん残っているが、臨海部には関西でも有数の観光スポット「りんくうタウン」があり、橋を渡ると世界につながる「関西国際空港」がある近代的な都市でもあります。

りんくうタウンの発展

りんくうタウンは、関西国際空港の機能を補完する目的で大阪府により埋立て造成され、平成8年に「まちびらき」を行った区域です。当初、主に国際的なビジネス拠点として整備が予定された当該区域は、25年が経過した現在、大阪府の事業用定期借地方式の導入の企業誘致に関する施策が功を奏し、事業用地としての充実が図れたところ

です。本市としましても、土地の有効活用を図りながら、更なる活性化に取り組んでおり、なかでも、りんくうアイスパークについては、スケートリンクを核とし、官民連携のもと、豊かな緑とにぎわいあふれる公園的空間のまちづくりを推進しております。

関空アイスアリーナ

関空アイスアリーナは、国際スケート連盟の基準を満たした縦60m×横30mのリンクを有するスケート場です。令和元年12月、りんくうアイスパーク内に開業しました。

通年型の施設としてアイススケート文化の発展に貢献しています。



関空アイスアリーナ内観

泉佐野市立りんくう野外文化音楽堂

令和3年10月にりんくうアイスパーク芝生広場内にオープンしました本音楽堂は、りんくうタウンエリアの活性化を目的に、日本の伝統芸能、音楽、その他芸術などの活動、市民交流の促進を図る場として活用しております。また、市民等が気軽に多目的に利用できるよう、舞台機構は利用者自身が操作可能な設備とし、ステージの広さも様々な演目に対応可能としております。



りんくう野外文化音楽堂外観

eスタジアム泉佐野

本市がeスポーツに取り組み、そしてめざすところは、多種多様な人々の交流を促進し、地域に多様性をもたらすことで、都度生じる複雑で予想できない地域課題に対して、新しい考えや価値観で柔軟に対応できる持続可能な地域を成立させることです。

令和4年11月にりんくうタウン駅ビル内にオープンしましたeスタジアム泉佐野は、誰もが訪問しやすい街の公園のような施設であることをコンセプトとし、そのeスポーツによる課題解決への重要なアイコンとなっております。



eスタジアム泉佐野外観

りんくうタウンのこれから

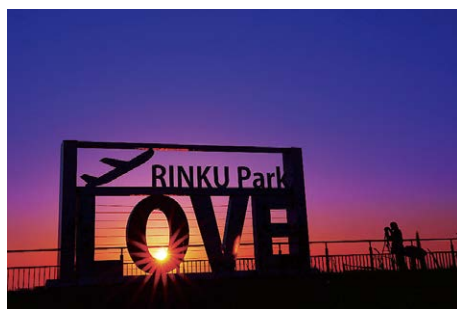
りんくうアイスパークでは、本市の商品開発・販路拡大等補助金「#ふるさと納税3.0」を活用して、クラフトビール「よなよなエール」を主力商品としたヤッホーブルーイング社の（仮称）大阪ブルワリーの誘致が決まっており、アイスアリーナを核とした賑わいのあるまちづくりをより推進していきます。

また、2025年には大阪で日本国際博覧会（大阪・関西万博）が開催されます。りんくうタウンにおいては、万博開催を見据え、国から認定を受けた地域活性化総合特別区域計画が進んでおり、大阪府とともに国際医療交流の推進、訪日外国人へのホスピタリティや地域魅力の向上による訪日促進に取り組んでいきます。

さらに、関西国際空港が万博の「ファーストパビリオン」と言われる中、泉佐野市は「セカンドパビリオン」となるよう、万博期間中に、りんくうタウンを中心とした独自の各種イベントの総称として「（仮称）泉佐野・EXPO EXPO事業」を実施し、万博を盛り上げていきます。



りんくうタウン空撮



りんくう公園内のモニュメント

吉村順三夫妻が育て上げた音楽教室

ソルフェージュスクール 一九六七年

文・写真 松隈洋 [神奈川県立神奈川大学建築学部教授]

こんなに可愛らしい子供たちの隠れ家のような音楽の空間が存在していたのか、そう思えるほど新鮮な驚きと発見があった。二〇二三年六月、東京都豊島区の山手線目白駅ほど近くの閑静な住宅地の一角に建つソルフェージュスクールという名称の音楽教室を訪ねた際の印象だ。創立者はヴァイオリニストの大村多喜子（一九一六〜二〇二二年）、設計は夫の東京芸術大学建築科教授の吉村順三（一九〇八〜一九七七年）が手がけている。す

三階の一〇〇人収容のホール



北西側から見る建物全景



なわち、ここは、吉村夫妻が共同で立ち上げ、育て上げた唯一無二の音楽教育のための空間なのである。その出発点となる二人の出会いも、時代の偶然が与えた一期一会に始まる。一九三六年、二〇歳で単身渡米した多喜子は、ニューヨークの名門ジュリアード音楽院でヴァイオリンの稽古に励んでいた。一方、吉村は、一九二七年、東京美術学校二年生の学生時代からアントニン・レーモンド事務所に

通い始め、一九三二年の卒業後、正式社員となつて働いていた。だが、日中戦争後の日米関係の悪化から、一九三八年にレーモンドはアメリカへ帰国し、フィラデルフィア郊外のニューホープの農場を購入してアトリエと自宅を構え、設計活動を続けていく。そして、一九四〇年、日本大使館の仕事に依頼されたレーモンドからの要請で、吉村は単身渡米し、ニューホープのアトリエに勤め始めるのだ。しかし、真珠湾攻撃前夜の急激な状況の暗転により、一九四一年七月、最後の日本への帰国船となる龍田丸に乗り、船上で乗り合わせた多喜子と出会うのである。帰国後、太平洋戦争下の一九四四年、二人は結婚する。敗戦後の一九五〇年、多喜子は、再びジュリアード音楽院へ留学し、一九五二年の帰国後は演奏活動を再開させる。そして、一九六一年、ある思いから、音楽仲間たちと共同で開校したのが、ソルフェージュスクールだった。後年の一九七七年、『機関誌』『ソルフェージュ音楽』第一号に、多喜子は、次のように書き留めている。

「音楽は真・善・美に対し直接的な感動をもつとも情緒的に表す芸術、感動を育てることで、社会生活で大切な人間相互の善意への信頼につながる清く美しい心を養う。この精神に基づいてソルフェージュを基礎とした音楽教育を始めた。」

ソルフェージュとは、フランス語で、それぞれの音符を、ドレミを使って声に出して歌うことを意味する。フランスやイタリアで数百年行われてきた音楽の基礎教育だという。その目標は、子供たちの聴音の能力や音

感を育て、リズム感や読譜力を養成するために、楽しく音楽させて、小さいころから体で音楽に親しむ環境を整えてあげることにかけている。そして、それに相応しい場所だと考えたのだろう。目白の閑静な住宅地の一角に敷地を求めて音楽教室を移転し、吉村の設計により新築されたのが、ソルフェージュスクールである。この音楽教室は、北側と西側を幅員四mの道路に面する敷地面積約一六〇㎡の角地に、それとは気づかないほど周囲に溶け込んで建っている。鉄筋コンクリート造、地上三階建て、延床面積約三〇〇㎡の小ぶりの規模である。一階に玄関ホールと職員室などの諸室、二階に個別レッスンに利用される四つの教室と楽器庫、三階に一〇〇人収容可能な約八五㎡の天井の高いホールがコンバクトに配置されている。住宅地の中の音楽教室という特殊な用途のため、慎重な建設計画が検討されたに違いない。建築に求められたのは、レッスン時の各楽器の演奏に相応しい部屋の大きさと集中しやすい雰囲気、音の響きの良さ、そして、外部への遮音と近接する住宅のプライバシーを守るという高いハードルだった。

そこで、吉村は、斜線規制や高さ制限の枠組みを最大限に活かすために、一、二階の階高を住宅のスケールに近い約二・五mに抑えて、三階ホールの天井高さを確保する。同時に、斜線規制を巧みに利用した勾配屋根とすることによって、音を奏でるホールとして必要な空間の容積を満たしながら、音の響きにとって好ましい形状を割り出していく。また、遮音と周囲の住宅を見下ろすことによるプライバシーの侵害を避け、音楽に

集中できる室内環境を整えるために、ホールの北側から西側へと連続する開口部の高さを六〇cmに抑えつつ、窓台の下部に椅子を収納する戸棚を設けることで、開口部に奥行き感を与え、ホールの視界を適度に制限する工夫も施された。さらに、こうして生み出された最大高さ約四mの勾配天井を、木軸の骨組みの上にラワンベニヤで全面的に覆うことにより、簡素でありながらも、柔らかく包み込まれるような、音楽のための落ち着いた空間が誕生したのである。

吉村が手がけたのは、建築や受付カウンター、造り付けのベンチ、に留まらなない。楽器を演奏する前に、鉛筆を持ってない幼児たちに触れさせるのが、ソルフェージュと呼ばれる独自の教育器具である。これは、プラスチック製の音符や休止符などの形をしたピースを五線譜に並べて楽しく音楽を学ぶ器具で、フランスの音楽教育家によって開発されたものだという。吉村は、この器具を復元してデザインし、スクールのパンフレットのイラストなども描いていたのだ。また、ロゴマークは、交友のあった亀倉雄策がデザインしている。創立から半世紀以上の歴史が積み重ねられ、二〇二二年に公益財団法人へ移行登記されたソルフェージュスクールからは、世界で活躍する多くの音楽家が巣立ち、卒業生の何人かは、今もここで教えている。そして、その中心にいるのは、チェリストである息女の吉村隆子さんだ。こうして、吉村順三と大村多喜子が仲間たちと築き上げた音楽のための空間からは、変わることなく、子供たちの奏でる楽器の音が聴こえてくる。

水の歓びを、 次の時代にも。

人と水とのよりよい関係に、
環境との調和は欠かせません。
SANEIでは心地よく使える
プロダクトの開発をはじめ、
環境負荷を抑えた
ものづくりを行っています。
またSDGsの目標に対応し、
生産から働き方まで、
この時代だけでなく、
次の時代にも水の歓びを引き継ぐ
行動に日々取り組んでいます。

ALWAYS WITH JOY
SANEI





旧美術館の高い塀をとり、大きく羽を広げたかのような庇が街に開き、人々を迎え入れる



天井ルーバーなどに既存の柱・梁を再利用した展示室 旧美術館の歴史や面影を残しながら、新しい展示のあり方を追求した